

2026-7月号

森の新聞 94

203号

NPO自然観察指導員京都連絡会



森の新聞 2026 年 7 月号 (第 94 号)

C O N T E N T S

第 247 回友の会 伏見北堀公園 ～季節の移ろいと草本～	1
第 248 回友の会 マキノ高原 ～早春の里山を歩く～	3
第 249 回友の会 竜王町鏡山 鳴谷池 ～湿地に咲く草花～	5
中世木モニタリング調査 3 月報告	7
中世木モニタリング調査 5 月報告	9
オオハンゴンソウ駆除活動 3 月	11
オオハンゴンソウ駆除活動 4 月	12
オオハンゴンソウ駆除活動 5 月	13
2026 年度 花背オオハンゴウソウ駆除大作戦 (1 回目)	14
花背自然観察会	15
オオハンゴンソウ駆除大作戦と自然観察会参加者の感想	16
高齢者大学校 自然観察会 東山	18
社会人大学校 古都をめぐる自然観察会 貴船	20
社会人大学校 古都をめぐる自然観察会 岩倉川	22
自然共生サイト区域植生調査 4 月 8 日	24
自然共生サイト区域植生調査 4 月 21 日	25
自然共生サイト区域植生調査 6 月 4 日	26
きょうと☆いきものフェス! 2026 けいはんな	27
八幡市主催 子ども自然観察会と生物多様性セミナー	29
鴨川探検! 再発見! 第 77 弾「春の鴨川水辺の自然観察会」	31
西山ファミリー環境探検隊	33
日帰り例会 能勢のブナ林と地黄湿地	35
能勢のブナ林と地黄湿地日帰り例会感想	37
きょうと生物多様性センター友の会設立記念シンポジウム報告	40
野鳥だより ―冬―	松井 隆 42
モチツツジとモチツツジカスミカメの密な関係	弓削 俊彬 44
ちょっとついでに自然観察 (20) 戸隠・玉原高原	平尾 繁和 46
伝言板	48
友の会 自然観察会案内 2026 年 10 月～12 月	52
あとがき	53
奥付	54

第 247 回友の会 伏見北堀公園

～季節の移ろいと草木～

日時 2026 年 3 月 15 日（日）
場所 JR 藤森駅～伏見北堀公園～桃山城～乃木神社
天候 晴れ
参加者 一般 35 名（内子ども 2 名） スタッフ 20 名
合計 55 名

肌寒い日でしたが、明るい陽射しのもと大勢の参加がありました。JR 藤森駅前を住宅地の間を通り北堀公園に向かいました。そこには大きなムクロジがあり沢山の実が落ちていました。

早速、ムクロジの実と水を使って実験開始。拾ったムクロジの実の皮と水をペットボトルに入れて振ってみると、なんと泡が立ちました。参加者から「おっ」という驚きの声。指導員は早速「これは石鹼と同じで昔洗剤代わりに使ったのですよ」と説明。

少し歩き凹んだ公園の底部。ここが旧伏見城のお堀だったことが分かります。観察ポイント 2 のカツラの木が並び、見上げると枝に沢山の実をつけたものと何もないものが見られます。実の付いたものは雌株、ないものは雄株。この時期だからこそカツラの雌雄が見わけられます。枝先をたぐると冬芽が開きだしイソギンチャクのような赤い雌しべが見えました。花といっても花卉はありません。これを可愛いと見るか、何だ「ちっさ」とうち捨てるかはそれぞれの感覚。もう少し進むと道の真ん中に背の高い木がありました。「これは何の木ですか」と問うと「メタセコイア」と返ってきました。でもヌマスギでした。みんなでヌマスギの特徴を探しましょうというので早速見つけてくれました。地上に立ち上がった 1 本の呼吸根です。

観察ポイント 3 に向かいます。観察対象は町でもよく見かけるヒイラギナンテン。参加者に集まってもらい爪楊枝を 1 本渡します。各自に花芯の雌しべの下を突いてもらいます。「さて何が起こるでしょうか、よく見てください」「あっ、なんか動いた」「周りから飛び出した」「なんかわからへん」様々な声が聞こえます。一通りすんだ所で何が起きているかを話します。「見えなかった人は、この動画を見てください」とスマホの画面を見せました。納得。参加者は爪楊枝で虫の役をしてもらったのです。植物は動かないと学校で習ったことは？そう、なんでも試してみることの大事さを考えました。



ムクロジの説明



カツラの説明



ヒイラギナンテンの観察

また斜面の上を通過、花が開きだしたハクモクレンと実殻をつけた冬芽のままのコブシ(観察ポイント4)を見ました。花の咲く向きで違いがわかると説明を受けました。昼食休憩です。

お腹も満ちて桃山城へ向かいます。その道筋に見たことがないと思うほどのコナラやアキニレ、ケヤキ、ナナミノキなどの大木がありました。これは旧伏見城の敷地であつたり、明治天皇陵や桓武天皇陵などがあって守られてきたからなのだろうかと思わせました。桃山城まで来ると、サンシュユに黄色い花と真赤な実が付いていました。黄と赤のコントラストを写真に収めていました。明治天皇陵の深い森を抜けると乃木神社の四辻にオドリコソウ大群落。あと 10 日もしたら花が開き出すことを楽しみに解散となりました。よく見る植物もじっくり観察すると面白いことがあると言うことを教えられた1日でした。(清)



モクレンとコブシの説明



オドリコソウの群生



ヌマスギの観察



アセビ(ピンク色)



サンシュユの黄色い花と赤い実



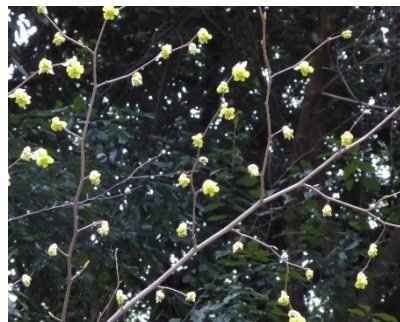
ナナミノキ



カナメモチ



アキニレ



トサミズキ



ハクモクレン

第 248 回友の会 マキノ高原

～早春の里山を歩く～

日時 2026 年 4 月 12 日（日）

場所 マキノの里山

天候 晴れ

参加者 一般 29 名（内子供 0 名）スタッフ 23 名 合計 52 名



周りの山々は芽吹きはじめ「山笑う」早春の景色の中を出発。

栗の木の下でハマダイコンが風に揺れ、春の心地よい風だった。

林道西山線に入り川沿いを歩く。そこには春の妖精が住む里山があった。まず川岸にはニリンソウが群生。はじめその葉を見分けるのも難しかった参加者も「あ！これニリンソウの葉っぱ」と分かるほど点在していて、次に出てきたイチリンソウとの見分けも容易に出来た。ヤマエンゴサクの淡い青紫色の花と切れ込みのある苞葉を間近で観察した。



ハマダイコン



ニリンソウ



イチリンソウ

林道沿いにはシャク、湖岸などに多いノウルシ、クサノオウ、イタドリ、ムラサキケマン、ミヤマキケマン、ミヤマハコベ、距が白いオオタチツボスミレ、カキドオシ、タニギキョウ、一重のヤマブキと途切れることなく続いたたくさんの植物に初めての参加者は驚いておられた。



ノウルシ



オオタチツボスミレ



シロダモ

林道から雑木林に入っていく。ここには写真家の今森光彦氏が「やまおやじ」とよんだクヌギの古木がある。薪として幾度も切られ、そのたびに萌芽更新を繰り返し独特の樹形になった。まさに雑木林の「主」である。その下にカタクリの花が一面に咲いていた。暖かい春の陽ざしでバレリーナのように花被片をクルリと上にあげ蜜の紋標をわずかに見せていた。参加者は思い思いの場所でシャッターをきった。めったに見られない白いカタクリも発見。トキワイカリソウも咲き始め里山にさらに彩を添えていた。クヌギやクロモジは花をつけもう少しで葉を展開させる。それまでにカタクリは花を咲かせ、果実をつけ、光合成をして1年分のエネルギーをたくわえ、その後地上部の葉を枯らし地中で休眠する。この生活史が春の妖精と言われるゆえんである。



クロモジ



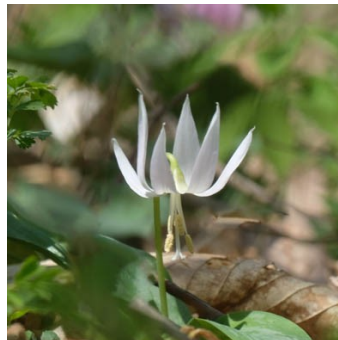
やまおやじ



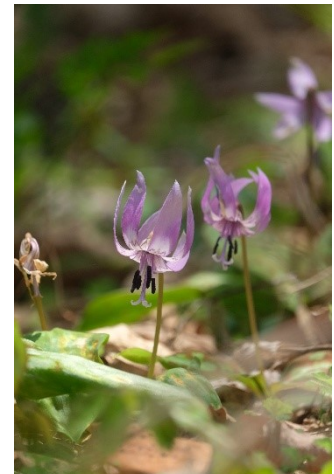
タンナサワフタギ



トキワイカリソウ



カタクリ (白)



カタクリ



ホウチャクソウ

昼食は鈴鹿山系と琵琶湖が見える絶景地。店開きはメタセコイア、カタクリの説明、新会員さんの名演技でクロモジ関連のあるあるクイズではアオモジはもちろん、シャモジやアカモジまであるかもと楽しんだ。(正木)

参加者の声

「今年はカタクリを見られないと思ったのに見られた！白は初めて」
 「里山をのんびり歩いたのが良かった」
 「教えてくれる人が沢山いて良かった」



クロモジ関連のあるあるクイズ

第 249 回友の会 竜王町鏡山 鳴谷池

～湿地に咲く草花～

日時 2026 年 5 月 17 日 (日)

場所 鏡山 鳴谷池 (滋賀県竜王町)

天候 晴れ

参加者 一般 27 名 スタッフ 18 名 合計 45 名

鏡山鳴谷池周辺は花崗岩で貧栄養地だが、鹿がいないため自然豊か。

初めに湿地への配慮として、木道や置石を踏み外さないことを学ぶ。

林縁にイタチハギやオオバヤシャブシが見られた。各々マメ科は根粒菌を、ハンノキ属は放線菌を根に住まわせ、光合成で作ったデンプンをエネルギーとして提供し、根粒菌や放線菌は大気中の窒素をアンモニアに変換する(窒素固定)。植物はアンモニアを吸収し光合成で作った炭水化物と結合させアミノ酸やタンパク質を合成し、やせ地でも育つため緑化に利用されてきたが、イタチハギは外来種なので問題視され始めている。

マルバアオダモに止まった珍しいオオヤマトンボのハート型交尾態の望遠写真を共有していただいた。

笹につかまり羽化真っ最中のオオミズアオを足元に見た。コウモリの超音波を乱反射させる長い尾状突起を持ち、雌が放つフェロモンをキャッチするための触角は羽毛状だ。成虫は口や消化器官をなくすことで飛行能力を最大化し、わずか 1-2 週間の間に子孫を残すためにだけに生きる。願い叶いますように。

店開き①マルバアオダモの枝をペットボトルの水中に浸しブラックライト(紫外線ライト)で照らすこと数分、枝から青い光がオーロラのように揺れ、感嘆の声があがった。

店開き②ガンピ(雁皮)は、栽培困難で野生種が使われるため高価。ガンピを原料とする和紙は頑丈さと美しさを併せ持つため、文化財修復に使われる。

モウセンゴケ属。逆光の中、腺毛がティアラのように輝いていた。

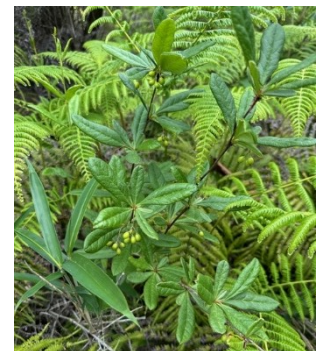
背面にいがぐり坊主のような緑の毛を密生したヒメヤママユ終齢幼虫に会った。寄生蜂に半数以上寄生され成虫になれる確率は 1%と言われる。これも口が退化し、幼虫時の栄養だけで交尾と産卵を終えると数日から 1 週間程で自然死する。葉を食べる姿が愛しく見えた。命、繋げられますように。(前田かをり)



モウセンゴケ



ヒメハギ



ヘビノボラズ



サルマメ



観察風景①



観察風景②



オオミズアオ



ニホンカワトンボ♂



ハルリンドウ



ガンピ



マツ（雌花）



タニウツギ



コツクバネウツギ



店開き（タンポポのクイズ）



店開き（アオダモの実験）

中世木モニタリング調査 3月報告

区分 モニタリング
日時 2026年3月20日（金・春分の日）
場所 南丹市日吉町中世木地区調査区域（A・B・C）、地元農家の方の栗畑、笛吹神社周辺
天候 晴れ
主宰 前田敦子
参加者 7名

今年で5年目になるという中世木モニタリング調査に初めて参加しました。晴天の爽やかな空気の中、新入会の方々とともに、清水さんに教えていただきながらの調査となりました。

A地区（畑周辺） 足元にはノアザミ（ロゼット）、ミチタネツケバナ（花）、ヤマネコノメソウ（花）、フキ（花）、ジャノヒゲ（実）、アマナ（葉）などを確認しました。

B地区（里道） ダンコウバイの黄色い花がぼつぼつと丸く咲き、枯れた葉が多く枝に残って目立つヤマコウバシの木、キブシ（花）、アブラチャン（花）などが見られました。ナワシログミの葉の間に赤いものが見え、タンキリマメかトキリマメのいずれの実の鞘とのこと。道の脇にはオオカサゴケ、タマゴケも確認。

C地区（林道） タチネコノメソウ（花）、オオバタネツケバナ（葉）、多数のアケボノソウ（葉）、コウヤコケシノブ、オオバノイノモトソウ、クラマゴケなどを確認。

午後は、地元農家の方の栗畑へ向かいました。道端にはところどころにキバナノアマナが咲いています。栗畑の辺りは斜面になっていて、足元に注意しながら登っていくと、白い小さなセツブンソウが咲いていました。ここ中世木のセツブンソウは、花の中心も白っぽく、花卉が細めで可憐な印象です。周囲には、アズマイチゲの白い花も見られました。

笛吹神社では、まず社の裏山周辺を調査しました。半日陰の斜面でカテンソウ（葉）、ミヤコアオイ（葉）などの中、ミヤマカタバミの白い花がひときわ目を引きます。ユキワリイチゲの花、クロチャウソウも確認できました。さらに、笛吹神社前の府道沿いに少し北へ歩きながら、裏山西側の法面を見ていくと、コクサギ（実・冬芽）、イチリンソウ（葉）、スズシロソウ（花）、上方にはマルバウマノスズクサ（実）などが確認できました。

このような素晴らしい機会を与えてくださった皆様に感謝いたします。これからも可能なときには、また参加したいと思いました。（岡本みどり）



アブラチャン



タンキリマメ か トキリマメ



アズマイチゲ



ユキワリイチゲ



ミヤマカタバミ



スズシロソウ



キバナノアマナ



セツブンソウ

中世木モニタリング調査 5月報告

区分 モニタリング
日時 2026年5月25日(月)
場所 南丹市日吉町中世木地区
天候 晴れ
主宰 前田敦子
参加者 7人



ベニバナヤマシャクヤク

純白の花が咲くベニバナヤマシャクヤクと大輪の白い花、ヤマイバラの開花を楽しみにして訪れた5月の中世木のモニタリングです。
(どちらも見る事が出来ませんでした。)

中世木のモニタリング調査コースはA地区(畑周辺) B地区(里道) C地区(林道)と区分けをして調査をしています。

「A地区(畑周辺) B地区(里道) C地区(林道)」の植物

クマヤナギ・スイカズラ・ウツギ・クマノミズキ・マタタビ、ヤブデマリ・ウツボグサ・ウマノアシガタ・ノアザミ・ゲンノショウコ・フタリシズカ・ダンコウバイ・ケサンカクヅル・コナスビ・アマドコロ・カラスビシャク・ホタルブクロ・ヒメコウゾ・コムラサキ・ミズタビラコ・クロモジ等々55種をマイフィールドノートに記録。

A・B地区からC地区に向かう分かれ道はクマノミズキ、マタタビ、クマヤナギ、ネムノキ等で木の陰になります。私はこの木陰は水分補給と休憩をする場所と勝手に決めています。木の陰を作り出す樹々の中に「落葉樹の中で最も芽吹きが遅い」と知られるネムノキがあります。足を休めて仰いだ頭上のネムノキも芽吹き始めて間がないと見えて葉の数が少ないお寝坊のネムノキでした。

午後はベニバナヤマシャクヤクの群生地へ。明日にでも花が咲きそうな蕾のほころんだ株が数多くありました。咲き誇る純白のベニバナヤマシャクヤクを見る事が出来なかったのが少し残念でしたが、新たな場所でイナモリソウの株を発見した事は次に訪れる楽しみになりました。

「雑記」 C地区のアケボノソウの株が減少している様に感じています。このように思うのは私だけだろうか。ハンショウヅルの花を見たのは初めてかも。新鮮だ。群生地のベニバナヤマシャクヤクの株数の集計は後日に聞く事にしよう。「マイフィールドノートから」 (久間)



ギンパイソウ(園芸逸出)



オカタツナミソウ



アケボノソウ



ダンコウバイ



ハンショウヅル



ジャケツイバラ



活動風景



雨を待つ
チャルメルソウの種



ベニバナヤマシャクヤクの群生地



昼食風景



シリアゲムシ

オオハンゴンソウ駆除活動記録

(記入者) 久間

活動日時	年月日		曜日		時間		天候	
	2026年3月24日		火曜日		10:00～12:00		晴	
活動内容	会議		作業 鍬とスコップで掘り起し作業			その他 モニタリング 広河原長尾谷		
活動場所	市民農園横休耕田							
参加者名(所属)	清水	古結	梅田	白石	出口	斎藤	久間	
活動報告	2026年度、第1回目の抜根作業活動。花背の長い冬から目覚めたオオハンゴンソウの株を鍬とスコップで掘り起し作業を行いました。本日の抜根作業の成果は45ℓごみ袋2個でした。4月26日実施のオオハンゴンソウ駆除活動で借りる耕運機の台数と掘り起し場所。大作戦日に多くのボランティアの参加者を想定して作業内容の構想を練る。午後からは観察会の候補地探しを兼ねて山（地名は??）に入り花背の早春を楽しみました。							
活動の成果	昨年11月にミニ畑に蒔いた種6種類（アケボノソウ・カリガネソウ・オタカラコウ・トリカブト・ハダカホオズキ・サンショウ）発芽の確認ができた。6種類の種の発芽はオオハンゴンソウ駆除活動の成果だと思う。花背小中学校の児童たちが特定外来生物オオハンゴンソウの学習していること"花背の自然を守る"活動がさらに進んでいる証といえる。これら2コマが嬉しい。							
今後の課題	市民農園の利用方法。抜根作業と並行して花背地域自生の山野草植物を育てる方向に進めて行きたい。この企画はシカ・イノシシとの戦いになる。また、水路の確保も必要です。特に害獣被害対策に資金が必要です。夏原グラントのから5年間受けた助成金が2025年で終了になったことから早急に企業からの助成金申請を検討。							
備考								



オオハンゴンソウの葉が出始めた



11月に蒔いた種の発芽が見られた



双葉や本葉が1枚なので鹿の被害なし



落葉樹の葉の展開はまだ



トウゲシバに胞子囊を発見

オオハンゴンソウ駆除活動記録

(記入者) 齋藤

活動日時	年月日		曜日		時間		天候	
	2026年4月16日		木曜日		10：00～13：00		晴れ	
活動内容	会議		作業 4月26日オオハンゴンソウ大作戦と自然観察会の準備。			その他 13：00～16：004月26日大作戦の自然観察会の下見 ちしょろ谷と別所スキー場跡		
活動場所	市民農園横休耕田							
参加者名(所属)	清水	古結	梅田	田中	齋藤			
活動報告	○オオハンゴンソウ大作戦4/26の準備 ・4/26の参加者にはオオハンゴンソウの抜根作業を実施する ・冬のうちに土が硬くなっているので耕運機で掘り起こしを試みたが耕運機の調子が悪く、鍬、スコップで掘り起こした。 (市民農園に耕運機が2台あり借りることができたが2台とも長らく使っていなかったので、修理が必要) ○昨年に続き抜根をしている休耕田でミニ観察会(オオハンゴンソウ抜根で咲くようになった在来の植物の観察会：給水と合わせて15分程度の予定)の準備。開花している花の確認。							
活動の成果	4/26の抜根用にかなり広い範囲まで耕せた。旧花背別所小学校から別所スキー場跡地までの林道脇川沿いにクリンソウの群落がありつばみがあったので4/26の観察地は別所スキー場跡地への道に決定							
今後の課題	耕運機の修理。3台使用できるようになるとかなり効率よく耕せ抜根が容易になる。 オオハンゴンソウ駆除活動に参加する人が少なくなっている。(人員確保)							
備考								



掘り起こし前



掘り起こし後



休耕田に花背の植物を取り撤ぎ(2025年11月)発芽実験中



休
耕
田
植
物



タネツケバナ



ツボスミレ



ムラサキサギゴケ



ムラサキケマン



ハコベ



ヘビイチゴ



ネコノメソウ



オオイヌノフグリ

別
所
ス
キ
ー
場
跡



ズミ



クリンソウ



アミガサタケ

オオハンゴンソウ駆除活動記録

(記入者) 市岡・齋藤

活動日時	年月日		曜日		時間		天候	
	2026年5月26日		火曜日		11:00~12:30 13:30~15:00		晴れ	
活動内容	会議		作業 抜根と刈り取り 駆除後の確認と抜根			その他 花背モニタリング (10:00 ~11:00)		
活動場所	午前中：市民農園横休耕田 午後：古原氏休耕田							
参加者名(所属)	清水	梅田	白石	久間	由井	市岡	前田か	齋藤
活動報告	○オオハンゴンソウ駆除作業 午前中市民農園横休耕田で抜根作業（種から大量に発芽、抜根した。5月耕運機で耕したところの抜根作業） 午後古原氏休耕田でモデル区（完全抜根したところ）9株生えていたので抜根。抜根していないところのオオハンゴンソウが山のほうに広がりつつある。オカタツナミソウ、オタカラコウがあるところの周辺を抜根した。 ○花背モニタリング報告 花背への道中、キリ、ホウノキ、タニウツギ、ジャケツイバラが満開でした。オオハンゴンソウ駆除に行く前に観察。ヒメザゼンソウは大小の株が111、内2つの株には花が咲いていました。ショウジョウバカマの花後の茎を触ると小さな種がパッと飛びオオーっと感激。イワナシの実を皮をむくと中から白くみずみずしい果肉が出てきました。梨のような感触がイワナシの名の由来と納得。他にダイヤモンドソウ、コバノギボウシ、トキワイカリソウ等、狭い範囲にたくさんの植物が見られました。							
活動の成果	市民農園横休耕田ゴミ20L×3袋 オオハンゴンソウの花が咲いている株1株、蕾の株は6株 古原氏休耕田ゴミ20L×2袋 ヒメザゼンソウの個体数確認111株、開花2株 イワナシ実、コアジサイ花、スノキ花。看板の貼り換え4か所終了。							
今後の課題	オオハンゴンソウ駆除で明るくなったところに種の発芽が大量。大きくなる前に抜根が必要。5月だが蕾ののっている物がたくさんある。（川側の手つかずの休耕田）							
備考	5年目になるので広河原、花背で花が咲くときに繁茂状況を確認したい。							



抜根作業

発芽したオオハンゴンソウがびっしり



開花株

つばみ株

一度も抜根していない株は約15cm塊根

古原氏抜根区 とオカタツナミソウ

2026 年度 花背オオハンゴンソウ駆除大作戦 （1 回目）

日 時 2026 年 4 月 26 日(日)

場 所 京都市左京区花脊八柵 市民貸農園たんぼぼの里横の休耕田

天 候 晴れのち曇り

参加者 一般参加 47 名（うち子供 10 名） スタッフ 17 名 合計 64 名

今回は今年1回目のボランティア大作戦です。天候は晴れるとともに暖かくなりましたが風は涼しく、作業日和となりました。この会は参加者全員で一つの円を作ることからスタート。代表の挨拶・作業手順の説明の後、リピーターの方はすぐ一列になって抜根作業開始。初めての方にはオオハンゴンソウや抜根の方法を知ってもらいました。前日に抜根しやすいよう耕運機で土をほぐしてくれていましたが、オオハンゴンソウの根は深くなかなか手強かったです。

今回は 64 名も参加して下さったお陰で午前中に目標範囲の作業を終えることが出来ました。小学生達は巨大ミミズや毛虫、幼虫などを観察しながらも積極的に力仕事も手伝ってくれました。休憩時、この休耕田に少しずつ増えてきた在来植物を代表が説明しました。ムラサキサギゴケ、ツメクサ、チドメグサ、ニョイスミレなど春の小さな花を観察しました。集合写真を撮影してから河原にて昼食をとりました。ご協力いただいた地域の方・きょうと生物多様性センターの方・京都府環境保全課の方をはじめ皆様有り難うございました。（新堀）



抜根作業中



抜根作業後

2022 年オオハンゴンソウにおおわれていた休耕田から次第に在来植物が出てきた



オオハンゴンソウの根



ヘビイチゴ



ニョイスミレ



ムラサキサギゴケ



耕運機で掘り起こし



目標を達成した笑顔の参加者

花脊自然観察会

日 時 2026 年 4 月 26 日 (日)
場 所 京都市左京区花背別所
天 候 曇り
参加者 49 名 (内こども 9 名)



カヤラン

オオハンゴンソウの駆除大作業の後、観察会がありました。クリンソウの群生は素晴らしかったです。可憐な紫の花。スノキの葉っぱを噛んでみました。とても酸っぱい！サワラは葉の裏に X ヒノキは葉の裏に Y アスナロの葉の裏には W 葉裏の模様（気孔帯）を確認しないと…みんなよく似ています。カヤランはとても可憐な黄色い花です。カラムツの枝が落ちていました。普段は見上げる高い所にある木。松ぼっくりの赤ちゃんがイチゴに似ていて可愛かった。今回も色々な種類の木々が観察できました。ありがとうございました。（鹿島）



八重桜の下 観察会開始



カラムツ



高いなあ～



タニギキョウ



養蜂のお話



フウロケマン



ニリンソウ



クリンソウが谷に沿って群生

2026 年 4 月 26 日 オオハンゴンソウ大作戦と自然観察会参加者の感想

参加された方からたくさんの感想をいただきました。掲載させていただきます。

・本日はオオハンゴンソウの駆除活動に参加させていただき、誠にありがとうございました。

実際に群生している様子や、根から丁寧に除去する作業を行い、外来種対策の重要性と大変さを強く実感いたしました。また、植物についてのご紹介が丁寧で大変分かりやすく、理解を深めることができました。

このような貴重な活動に参加できたことに心より感謝申し上げます。ぜひ次回も参加させていただきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(初参加 女性)

・ありがとうございます。

北国の春のように、一斉に花が咲いたような素晴らしい景色を堪能させていただきました。

沢山のお話も聞けてよかったです。(話しが聞こえるように、なるべく前方にくっついてしまいすみません)

都合があれば、また参加したいと思います。(初参加 女性)

・昨日はありがとうございました。

抜根の昨日は腰が痛かった(笑)今日は固い土を掘った右側が痛くなりました(笑)が、孫達が頑張ってくれていて、嬉しかったです。オオハンゴンソウの太くて固くなった根っ子には驚きました！

余談ですが、お昼の川原での石投？(水面を何段か飛ばす石投)も石探しも楽しめました。

自然観察では歩く植物図鑑の様に色々とお話しくださり、興味津々でした。自然豊かな花背が好きになりました。お世話様でした。(孫と3人で参加)

・おつかれさまでした。こちらこそ参加させて頂き、ありがとうございました。写真見させていただきます。

今後も機会を見て参加したいと思っています。(初参加 男性)



・昨日はとても楽しい1日でした。 ありがとうございます。

オオハンゴンソウの根っ子の強力ぶりに驚きました。アレをすべて駆除するのは果てしない労力が必要ですね。普段と違う体勢で、普段と違う筋肉を使ったので、変な所が筋肉痛です…。(ご夫婦で初参加)

・先日はお世話になりありがとうございました！

集合写真拝見しました。

広い世代でたくさんの参加があり、よかったですね。観察会も含め楽しませていただきました。またよろしく願いいたします。(男性)

・今回この様な活動に参加させていただいた中で、オオハンゴンソウなどの植物がいる中、今環境がどのような現状にあるのか、生態系への影響を知ることができました。

こういった活動はとても貴重であり、いつでも行けるものではないため新鮮でした。そしてこの活動を通して様々な知識を持った方や環境に関する活動をしてらっしゃる方と交流したことで社会と繋がっていくことや生態系、植物に関心を持つことができました。植物の知識などは現代ではインターネットで調べれば出てくるものですが、そもそもその植物と実際出会わなければ調べる動機や疑問は持ちません。自らその自然に身を置くことで周囲の人の声から始めて知らない植物や現状に触れることができます。そういった自然の生物との接触だけでなく説明まで一緒に自分に取り込める機会はとても楽しく感じられました。ありがとう御座います。予定があればまた行きたいです！(初参加 高校生)



高齢者大学校 自然観察会 東山

区分 講師派遣
日時 2026年3月17日(火)
場所 東山トレイル〜清水寺
天候 晴れ
主催者 高齢者大学校
参加者 大人33名、noi-Kyoto 7名

朝からつまずいた。バスが来ないのでタクシーを利用。現地に行きバス路線の途中で事故がありダイヤが乱れていたことを知った。

集合が遅れたが、さあ開始。

東山トレイルに入る。マテバシイ、ヤツデ、アオキ、オドリコソウがある。住宅地ではヒメオドリコソウはあるが、オドリコソウにはお目にかかれない。豊かな植生が残っている証拠です。横にニワトコの花のつぼみがあり、森のブロッコリーと紹介した。そこからすぐに山に登っていく。シロバイ、クロバイ。バイが名前の中にあるとすぐに“梅”の文字を連想するが、これは“灰”を表している。どちらも媒染剤の役割を持っているから。ハイノキ科の仲間は皆、媒染剤になるのだろうか。シロバイは本当にたくさんのところにあった。葉のふちが波打ち、ピカピカ光っている。シイの極相林の樹冠を見て欲しかったが、説明のタイミングがつかめなかった。ウワミズザクラ、ツクバネガシ、ヤマモモ、アリドオシ。オオアリドオシはこの場所でしか見たことがない。果柄を付けたソヨゴの赤い実が落ちている。カクレミノ、サカキ、ヒサカキ、ウラジロ、コシダ、エゴノキ、タマミズキ等色々見てもらった。最後にイヌガシ。以前に石清水八幡宮で見てから気にかかるようになった。まだ寒い間に暗紅紫色の花が咲く。イヌガシというとカシ類かと思うが、クスノキ科の仲間。三行脈の葉がそれをよく表している。



シイの樹冠

高齢者大学に参加している人達は一年の間に互いに知り合い、自然なつながりができている。手を引いてあげたり、見守っていたり。今回私は人手が足りていないので初めて参加した。noi-Kyotoのメンバーは高齢者大学校のスタッフや受講者の方達との信頼関係がしっかりできている。その結果、ここで見かけた方がnoi-Kyotoのいろいろな取り組みに来て下さっていることにつながっているのだろう。最後に参加者の一人がマキノの観察会に参加させてもらいますとnoi-Kyotoのスタッフに声掛けをされていた。(海老原)



オドリコソウ群落



ヤツデ



ニワトコ



観察風景



ツクバネガシ



タマミズキ



イヌガシ



クロバイ



シロバイ



アリドオシ



清水山山頂にて



リンボク



オオアリドオシ



リンボク花外蜜腺



リュウノヒゲ



観察風景



ウラジロ

社会人大学校 古都をめぐる自然観察会 貴船

区分 講師派遣

日時 2026年4月21日(火)

場所 貴船

天候 晴れ

主催 社会人大学校

参加者 38名 noi-Kyoto 7名



スギタニルリシジミ

昨年度までの高齢者大学校から社会人大学校に名称が変わりました。第一回目の観察会で貴船のバス駐車場に集合しました。当会代表挨拶の中での話にあったように、観察はまずその時期、その場所を体感することが大切です。街中より少しひんやりする感触や、川の流れる音を聞き、新緑の景色を見ながら三班に分かれて貴船神社本宮へ向け、清流貴船川沿いを歩きました。青もみじが本当にきれいです。川床の準備もされており活気があります。シャガの花があちこちに見られました。途中石垣に生えているミヤコアオイの花を葉の下をかき分けて探したりしました。同じ属でもフタバアオイのそれは趣が異なり面白いです。道幅の狭い所では、1列になるので参加者には説明が聞こえないこともあるのですが、ヤマルリソウ、マルバコンロンソウ、スズシロソウ、ミヤマハコベ、ツルカノコソウ、シュンランなど街中では見られない花々の撮影ができ笑顔が見られました。本宮から奥宮までの観察の後、集合場所まで引き返して正午少し過ぎに解散しました。個人的には下見時にスギタニルリシジミに出会えたこと(今年4月の「森の新聞」“京のチョウ”で掲載)、また貴船川の落差工の滝にカワガラスが雛に餌を運ぶ姿を目撃できたことが嬉しかったです。京の奥座敷として観光の側面もありますが、神社関係、地元の人々がこの水源の森を大切に守っていきこうと尽力されています。今後もこの環境に留意していきたいと思いました。(榎)



観察風景



アオハコベ



ニリンソウ



イチリンソウ



ヤマルリソウ



ハナイカダ



ケヤキの芽吹き



ミヤコアオイ



フタバアオイ



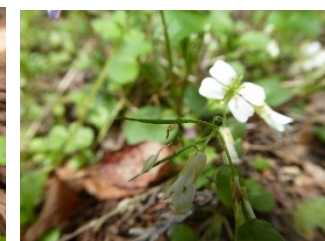
フタバアオイ花



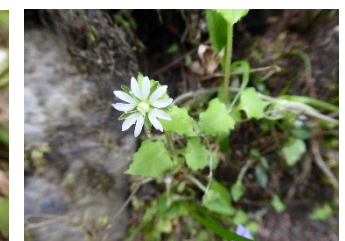
クルマムグラ



ツルカノコソウ



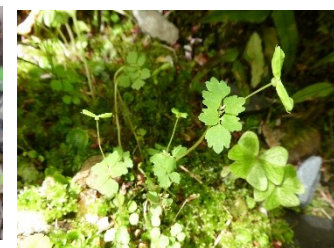
スズシロソウ



ミヤマハコベ



トウゴクサバノオ



トウゴクサバノオ実



ラショウモンカズラ



トキワイカリソウ



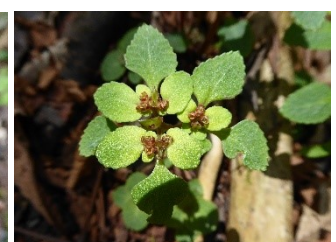
シュンラン



フウロケマン



ヤマネコノメソウ



ボタンネコノメソウ



コタニワタリ



イノデ



貴船神社御神木カツラ樹齢 400 年



貴船名石 つつみヶ岩

京都社会人大学校 古都をめぐる自然観察会 岩倉川

区分 講師派遣
日時 2026年5月19日(火)
場所 実相院 岩倉川沿い
天候 晴れ
主催 京都社会人大学校
参加者 38名 noi-Kyoto 5名



マツの観察

今回は実相院前から岩倉川沿いの道をゆっくりと観察します。

実相院前バス停の広場で受講者の方々がそろそろのを待ちながら、マツの枝と球果の観察をしました。一本の枝先に3年分の球果がそれぞれの様子で付いているので、その変化を観察できました。枝先の一番小さいものはマツの雌花。まるでミニ松ぼっくりです。

観察の出発時には経路のマップ(植物の位置も表示してある)を渡しました。受講者の皆さんはマップを参考に植物の名前などを確認しながら歩かれていました。

まずは、バス停広場で、樹木の高木層、亜高木層のような階層構造のしくみを説明。スダジイの大木を見て木肌の縦じま模様などの特徴を知り、経路では山側の植物を観察。モチツツジはねばねばの中に捕らわれた小さな虫がいる、ヨウシュヤマゴボウは木のような大きな姿になる、ネジキは白い花を連ねている、コツクバネウツギは花の色に変化がある、ヒメコウゾは果実に毛があって甘い実だが食べたら喉がかゆくなるなどなど…。木陰を作ったクヌギの大木の下で水分補給と休憩をしながら、岩倉川沿いのクヌギはコブ(薪炭利用の伐採した時の痕跡)の位置が高い台場クヌギです。

この日の最高気温予報は28℃。木陰が比較的少なく、皆さん汗を拭き拭きハンカチでパタパタと風を作りながら観察をされていました。青葉の季節にお天気に恵まれました。観察会が解散したあとは、実相院の「床みどり」を堪能された方もいらっしゃるかもしれませんね。(田中)



集合の様子



観察会開始



スダジイの説明



ヨウシュヤマゴボウ



エゴノキ



エノキハトガリフシ



タンナサワフタギ



岩倉川沿いの観察



コゴメウツギ



ウツギ



キバナツクバネウツギ



アマガエル



ヒルザキツキミソウ



ハハコグサ



アメリカフウロ

自然共生サイト区域植生調査

区分 講師派遣
日時 2026 年 4 月 8 日 (水)
場所 左京区静市市原 川島織物セルコン
天候 晴れ
主催 川島織物
参加者 きょうと生物多様性センター 1 名 noi-Kyoto 2 名 川島織物 3 名

川島織物セルコンでは、CSR 部の取り組みとして「自然共生サイト」認定を環境省からうけるべく、左京区市原にある本社の裏山と本社前の草地の調査をしたいということで、noi-Kyoto が協力をする事になりました。

今回 2 回目、裏山の大きな調査を行い、調査地全体の把握と大まかな植生を調べました。

裏山は東西に細長いので植生によって 4 つくらいのエリアに分けられそうです。

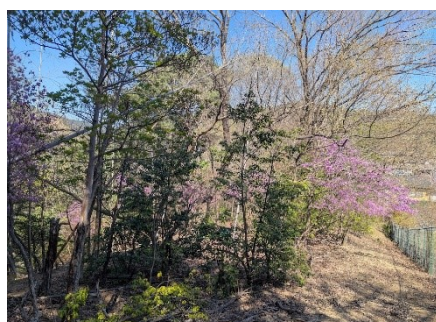
東の端から北側は川島織物の社屋と南側は民家フェンスに仕切られていますが鹿害がありました。大木伐採跡でヤマザクラ、イロハモミジ、アラカシ、クヌギ、タラノキ、イワヒメワラビなど下草は少なく山肌の土がでているエリア。次のエリアはナンキンハゼ、トウネズミモチ、ケヤキ、アオハダ、アベマキ、ウメ、サンショウ、コバノミツバツツジ、ヒマラヤスギ、アカマツ、ソヨゴ、植栽されたものもありますが林床は明るく少し水分がある。タチイヌノフグリ、キランソウ、コヒロハハナヤスリがあったエリア。

更に西へ杉の植林エリアになり、林床は暗くなります。途中で水がたまった洞状の場所がありその周辺にはツルアリドオシ、トウゲシバ、ショウジョウバカマ、スマレ sp. ミヤコアオイ、などがあるエリア。一番西側のエリアは以前何があったか不明ですがイワヒメワラビとニガイチゴ、タケニグサ、その中にタチツボスミレが咲いていました。

シカの食痕が多数あって、けもの道になっているところにトレイルカメラを 2 台設置して終了しました。(齋藤)



打ち合わせをしながら進めていきます



カメラの取付け



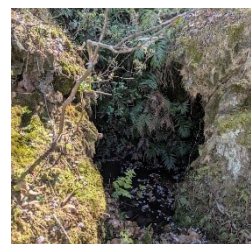
コバノミツバツツジ



タチツボスミレ



トレイルカメラ設置



少し水がたまっている

自然共生サイト区域植生調査

区分 講師派遣
日時 2026 年 4 月 21 日 (火)
場所 左京区静市市原 川島織物セルコン
天候 晴れ
主催 川島織物
参加者 きょうと生物多様性センター 1 名 noi-Kyoto 5 名 川島織物 3 名

川島織物セルコンでは、CSR 部の取り組みとして「自然共生サイト」認定を環境省からうけるべく、左京区市原にある本社の裏山と本社前の草地の調査したいということで、noi-Kyoto が協力をする事になりました。

3 回目の調査です。今回は本社前の草地調査をしました。広いので草地を何も植樹がない草地の周りを 4 エリア。水車があるエリア。サクラ、トチノキ、エンジュ、ビワのなどがあるエリア。6 ヲ所のエリアに分けました。(地図参照)

オオイヌノフグリ、ハコベ、ナズナ、ヒメオドリコソウ、タネツケバナ、キュウリグサ、オランダミミナグサ、コハコベ、フラサバソウ、カラスノエンドウ、キランソウ、ムラサキケマン、ウスアカカタバミ、セイヨウタンポポ、カキドオシ、ツボスミレ、アメリカフウロ、ヒメウズ、マツバウンラン、ヘビイチゴ、コモチマンネングサなど、水車があるところは池になっているのでオオカワジシャ (特定外来生物)、ミゾソバ、セリ、タデ科の仲間もありました。

総数は 78 種 (シダ 2 種、木本 9 種、草本 67 種) うち外来種 16 種を含む
ツボスミレが群生しているところもありました。

芝生地になっていて鹿の糞やクルミの食跡などがあり、動物が来ている気配がありました。

毎年草刈りをしているようで、刈る時期の調整で植生が変わる可能性も考えられます。(齋藤)



自然共生サイト区域植生調査

区分 講師派遣
日時 2026 年 6 月 4 日 (木)
場所 左京区静海市原 川島織物セルコン
天候 晴れ
主催 川島織物
参加者 noi-Kyoto 2 名

川島織物セルコンでは、CSR 部の取り組みとして「自然共生サイト」認定を環境省からうけるべく、左京区市原にある本社の裏山と本社前の草地の調査をしたいということで、noi-Kyoto が協力をする事になりました。

4 回目の調査です。今回は本社裏山。4 月 8 日に全体把握と大まかな植生をしらべました。近隣の住民の方への台風被害が心配ということで、樹齢 80 年くらいのコナラ、アカマツが伐採され、トウカエデの細い幼木なども伐採されていました。4 月の調査時に比べ乾燥していました。確認したヒロハハナヤスリを今回は確認できませんでした。(後日存在を確認)

植物調査野帳より

東側山林：ヨウシュヤマゴボウ、レモンエゴマ (多い) カタバミ、ウスアカカタバミ、ノミノフスマ、ヘビイチゴ、ウスアカカタバミ、トキワハゼ、キランソウ、イワヒメワラビ (多い) ヤブタバコ、チチコグサ、アイイロニワゼキショウ、カンサイタンポポ、イロハモミジ、ムクノキ、マンリョウ、クスノキ、メダラ、アラカシ、キリ、イチョウ、イヌエンジュ、スギ、ナンキンハゼ (多い) ソヨゴ、サルトリイバラ、ヒマラヤスギ、サンショウ、アベマキ、ウメ、クリ、ウワミズザクラ、ヒサカキ、アカマツ、ヒノキ、イヌツゲ、カナメモチ、リョウブ、タカノツメ、コバノガマズミなど。

水が溜まっている洞の周り：イワナシ、ナツフジ、スノキ、シハイスミレ、ショウジョウバカマ、ウメモドキ、アリドオシ、ヒメジソなど。

西側山林：アオハダ、タケニグサ、タツナミソウなど。(齋藤)



アリドオシ



タツナミソウ



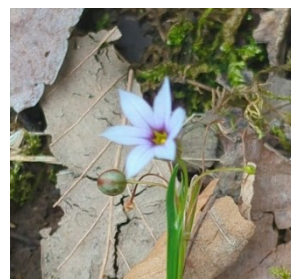
ウメモドキ



クリ



ヒマラヤスギ



アイイロニワゼキショウ

きょうと☆いきものフェス！2026in けいはんな

日時 2026年3月20日(金・祝)

天候 晴れ

会場 けいはんな記念公園 芝生広場

主催 きょうと生物多様性センター、京都府

参加 スタッフ4名

このイベントは京都府南部地域では初めての開催になります。昨年5月に丹後海と星の見える丘公園（宮津市）で実施され、同じく9月に京都府立植物園で実施されたいきものフェスでは約80の団体が出展しました。今日は18団体のブースが芝生広場の一角に並びました。マルシェも同時開催されていたので、そこからついでにこちらに立ち寄った人もあったかもしれません。他団体のワークショップで木工をやったり、またスタンプラリーで各ブースを回っている親子連れでにぎわっていました。当会はパネル展示だけでしたが、友の会観察会やオオハンゴンソウ駆除活動の取り組みの話に熱心に耳を傾けてくださる方もありました。天気も良く、大きな芝生広場ですからゆったりした気分になりました。広場を出たすぐの通りにはヤマモモの花が咲き始めていました。ミニ観察会ができればよかったなと思いました。（榎）



当会のブース パネル展示



他団体のブース 自然工作ワークショップ



他団体 木工体験



スタンプラリーのスタンプを押す



右上遠景はマルシェ



公園そばのヤマモモ

八幡市主催 子ども自然観察会と生物多様性セミナー

日 時 2026 年 5 月 9 日 (土) 第 1 部 (AM) 子ども自然観察会 第 2 部 (PM) 生物多様性セミナー
場 所 さくらであい館 かわきた自然運動公園下流
天 候 晴
参加者 小学生定員 15 名 (他に保護者約 15 名)
スタッフ・講師 昆虫・鳥担当 京都府希少野生生物保全推進員 1 名と他 3 名
noi-Kyoto : 4 名 京都府自然環境保全課 : 1 名
きょうと生物多様性センター : 1 名 八幡市 : 数名

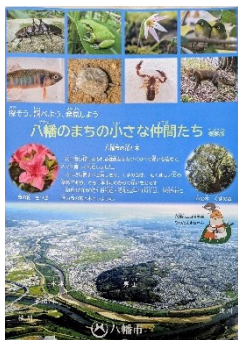
当日は最高気温 26 度予報でしたが、少し風の吹く気持ちのいい天気の日でした。
午前中の子ども自然観察会では、子どもたちは各々虫取り網や籠を持って楽しそうな顔で集合場所に集まって来ました。受付後に説明を聞いている参加者の中にはりピーターの顔もあり、親子に好評なイベントの様です。今回、観察会の途中では草花や樹木の説明に加え、ナヨクサフジなどの花を使った色押しの「しおり作り」やカラスノエンドウ（ピーピー豆）を使った「草笛の作り方」もやってみました。しかし、みんなが一番嬉しそうだったのは真っ赤に色づいたイチゴ類の味見でした。

午後のセミナーでは以下の演題で講演が有りました。(13:30~16:30 パネル・標本見学含む)

1. 京都府南部の多様性 きょうと生物多様性センター 中嶋 智子氏
2. 男山と三川合流域の生物多様性
①八幡市の生物多様性が高い要因、その変化と保全の必要性 京都府希少野生生物保全推進員 谷 壽一氏
②八幡市の植物の多様性 NPO 自然観察指導員京都連絡会 清水 正氏

このイベントに参加された皆さんには、特に男山や三川合流域の自然を見直し、身近な場所で貴重な自然にふれる良いきっかけになったと思います。

今回の参加者全員に、八幡市から「八幡のまちの小さな仲間たち」概要版を、きょうと生物多様性センターからは、私たちも参加しているイベントが紹介されている「ニュースレター」をそしてエコバック 2 種類 (午前、午後別) を頂きました。(古結)



概要版



講演風景



観察会開始



観察会風景



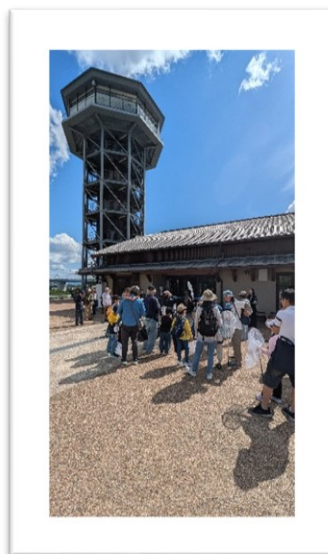
観察会風景



エコバック



展示会場



観察会集合場所



展示会場

鴨川探検！再発見！第77弾「春の鴨川水辺の自然観察会」

日時 2026年5月30日（土）

場所 賀茂川北山橋周辺河川敷

天候 晴れ

主催 京都府河川課

参加者 大人5名 子ども9名 京都府5名 学生スタッフ1名 noi-Kyoto 4名

京都府河川課・京都土木事務所からの委託による恒例の「鴨川探検～春～」の観察会を実施しました。

今年は参加家族の欠席もあり、5家族でしたが、その中に4月のオオハンゴンソウ駆除大作戦にご参加いただいた家族もおられました。いろいろな取り組みに参加していただくことは大変喜ばしいことです。

毎年、鴨川探検の際には「いきもの」のトピックス（例えば、オトシブミがいっぱいいる、カマキリが卵から孵りぞろぞろ出てきた）があるのですが、今年はさっぱりだったので、虫好き少年たちが思い思いに過ごしました。

1 cmくらいのショウリョウバッタが飛び跳ねるのをさっと掬い取ったり、モンシロチョウを捕まえたり。とても昆虫に詳しい保護者がおられ、子どもたちに解説してくださったり。（聞くとところによると家で100匹ほどバッタを飼われているとか）。

途中、ムラサキカタバミの茎を絡めてすもうをしたり、ヘラオオバコで引っ張り合いをしたりと草花遊びを始めると子どもたちは夢中になってしまいました。

「イモカタバミは根がイモで食べられるから、ムラサキカタバミも同じかな」といって、根を掘り出してくれた子もいました。（イモカタバミの根は生でも食べられ甘いのだとか。ムラサキカタバミもイモ状だったので、ちょっとかじって、同じ味だと教えてくれました）。

また、アカメガシワのスタンプをしてみました。紙に色がなかなか移らず、子どもたちは飽きてしまい、大人の方が夢中になっていました。

事務所に帰り恒例のしおりづくりをしました。しおりらしい細長い画用紙を準備していましたが、子どもたちの発想は柔軟で、わざと葉っぱをはみ出させたり、ヒメジョオンの花をバラバラにして散らしてみたりと個性豊かなしおりができあがりました。

最後に主催者から「酒屋さんの前掛け」みたいなおしゃれなエコバッグをプレゼントされ、お土産一杯の観察会となりました。（福井）



しおり作り はみだしもあり！



上手にできたね



うん こんなのもいいね



アカメガシワ スタンプ



鴨川探検 出発



カタツムリはいないのかな



カンサイタンポポ



ヘラオオバコの引っ張り合い



カタツムリみつけた



コナスビ



ヤブジラミを引っ付けて



カマキリの赤ちゃんだ



しおり作り これにしようか 大人も真剣



いただいたエコバッグ

西山ファミリー環境探検隊

区 分 講師派遣
日 時 2026 年 5 月 30 日(土)
場 所 天王山夢はたる公園～淀川河川公園
主催者 西山森林整備推進協議会
参加者 noi-Kyoto 8 名

全体説明の後、公園のすぐ横にヒメホタルが生息する森があるのでヒメホタルについて簡単な紹介をし、「自然観察！小泉川を下ってみよう」をテーマに出発しました。

小泉川の川面いっぱいにヨシが茂り、土手には種を付けたセイヨウカラシナ、カラムシ、ギシギシ、ヨモギなどもあり、その上にクズが覆い被さろうとつるを伸ばしていました。手のひら程度の大きさのクズの葉を、手を軽く握り輪になったところに葉をのせて叩き、大きな音をだす遊びを見せました。大人はすぐに大きな音を出せたのですが、子どもには難しく何度も挑戦していました。ヘラオオバコの茎を絡ませて引っ張り合う遊びは小さい子どもも試していました。

沿道にはムラサキカタバミ、ノアザミ、ヒメジョオン、シロツメクサ、アカツメクサ、アレチハナガサなどが見られましたが数は少なかったです。ノビルがムカゴを付けており、茎を引っ張ると鱗茎をつけたまま簡単に引き抜くことができました。また食べ方を知らせると何本か持ち帰る人もいました。マグワの木も多くありました。養蚕用に栽培されていたのではないのでしょうか。実を多く付けた木もありましたが、排ガスの多い場所なので食べずに話だけに留めました。

桂川との合流地点にクソニンジンがあり、独特の匂いがあるので、匂いを嗅いでもらい感想を聞くと、好感を持つ意見が結構ありました。この植物が発熱や日射病の薬草になることや、抽出物の主要な有効成分がマラリアに驚異的な効果をもたらすことを説明しました。

昼食はスタッフの方が作って下さったカレーを食べました。肉は鹿肉を用いたそうです。言われなければ牛肉との違いは分かりませんでした。

店開きでは、ヒメホタルの一生についての説明、採取した植物や生き物の話、カヤツリグサでの相性診断をしました。帰路は日差しの強い中、水分を摂りながら全行程を終了しました。(梅田)



イモカタバミ



ムラサキカタバミ



シカ肉カレーのお味はいかが？



トノサマバッタ幼虫 頭でっかちな
秋には立派に成長するんだね



竹の子発見！



ノアザミ



ヘラオオバコ 引っ張り合いは面白いぜ！

日帰り例会 能勢のブナ林と地黄湿地

日時 2026 年 5 月 24 日 (日)
場所 地黄湿地 妙見山
天候 晴れ
集合他 京都駅アバンティ横集合 9:00 出発 17:00 帰着
参加者 25 人



地黄湿地

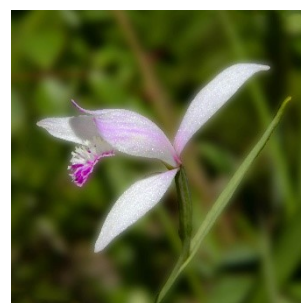
大阪府能勢町での日帰り例会です。地黄湿地、野間の大ケヤキ、妙見山のブナ林をめぐるしました。

まずは地黄湿地です。現地で活動されているボランティアの方に活動の様子や湿地の中での注意事項を聞いたのち、観察をすすめました。この湿地は1998年に大阪府緑地環境保全地域に指定され、その頃から保全活動が行われています。湿地を保つための水の流れの調整、秋冬はイネ科の草の刈り取り、鹿害からの保護柵の設置などです。今回観察できたもので印象的だったものは、湿地の中に一面に咲く（と思うぐらい）たくさん咲いたトキソウ、胞子葉がヤマドリ尾に似ているヤマドリゼンマイ、観察終わりに出現してくれた2頭のハッチョウトンボです。ここのハッチョウトンボは14年間発生が確認できない期間があり、ウシガエルを捕獲したり環境を整えることにより2020年に発生が再確認できたそうです。学術的に見てもよく手入れされ、行き届いた湿地だという評価を受けているそうです。



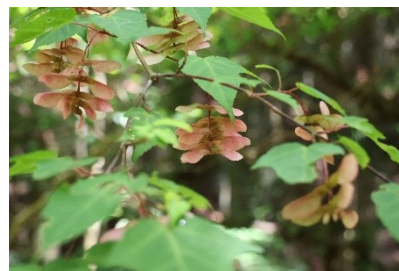
シソバツナミソウ

次は野間の大ケヤキへ移動。昼食です。大ケヤキには（…居ました！）アオバズクが1羽来ていました（会えて嬉しい）。なにせ大木なのでこの中からアオバズクを探すのは難しいと思っていたところ、ボランティアさんが望遠鏡を合わせて下さっていて、可愛い姿を見ることができました。道の駅で野菜などの直売やお土産を少し買いました。



トキソウ

妙見山のブナ林へ移動。ここのブナ林は割と低標高にあり、ブナ純林ではなくアカガシなどの高木類と共存することが特徴です。妙見山境内を通り急な下り坂の森の中をブナを探しつつ観察や研修をすすめました。だいたいブナは太く高く存在感がありました。観察の帰路では、「不思議だなと思うものを1つみつけましょう」という課題が出ました。簡単なようで難しい課題です。



ウリカエデ



モウセンゴケ



モリアオガエルの卵塊



ヤマドリゼンマイ



野間の大ケヤキ



野間の大ケヤキに宿るアオバズク



ツルアジサイ



妙見山ブナの高木



アカガシの花



ブナの実（不稔が多かった）



シオヤトンボ♂



シオヤトンボ♀



羽化して間もないハッチョウトンボ



妙見山展望台にて集合写真

能勢のブナ林と地黄湿地日帰り例会感想

2026 年 5 月 24 日実施

シュレーゲルアオガエルの合唱は心地よくてずっと聞いていたかった。真っ赤に成熟したオスのハッチョウトンボを見たかった。トキソウの群落、なんだか別世界にきたみたいだった(そりゃそうだ、湿地は確かに別世界)。野間の大ケヤキ様(壮観)、フクロウやアオバズクに住处を貸してくださりありがとうございます。(榎)

地黄湿地で保全の大切さ害獣(鹿)から守る取組など考えさせられました。野間の樺では千年の重みと生命の力強さを感じ天然記念物に指定されるだけあると感心しました。これからもいろんな自然に触れる機会をいただき楽しみが増えました。ありがとうございました。(前田啓子)

モリアオガエルの卵についていろいろと知ることができたのが一番印象に残りました。私の不思議はふたつです。ひとつは階段の各段の隅に違う種類の苔(?)が生えていましたが、ほかのものと取って代わらないのか、広がる早さはどれくらいなのかです。もうひとつはブナの実を割ってみたら茶色い粉が出てきました。虫はいないのになぜ萎れた実ではなく粉が出てきたのかです。(小仲)

気候も申し分なく、記憶に残る1日となりました。羽化したてのまだ尾っぽが赤く成っていないオスのハッチョウトンボ二匹を観られたことが1番嬉しかったです。ゆっくり観察出来ました。トキソウも沢山観られました。鹿害から守って下さる方々のおかげですね。

大ケヤキは野間の地で歴史とともに生きて、あの大木に成長し、圧倒される生命力に畏怖の念をいただきました。感動しました。(仁井)

「あっ！ハッチョウトンボ」「あそこだ！下の方に赤いのが見える」「うす黄色だね。葉先に止まっている」あれ？赤じゃあないの？え？葉の先？まだ羽化したばかりのハッチョウトンボはうす黄色だった！トキソウが無数に咲く上をハッチョウトンボがスーっと横切る湿原の景色に感無量。(正木)

バスの車窓から「野間のけやき」を見た一瞬、興味を持った。バスを降りてすぐに正面に向かった。近くで見ると幹は太くて樹皮は波打、枝も大きく広がり自然の力強さを感じた。ケヤキにはアオバズクとフクロウが来ており、望遠鏡が覗かせてもらった。実物を見るのは初めてであり、さらに感動が深まった。(梅田眞)



地黄湿地 シュレーゲルアオガエル、姿は緑色、金色の目が写真で確認、可愛い！！
コロコロと鳴き声可愛い！！野間の大けやき。樹齢１０００年以上の巨樹、圧巻！！
野鳥愛好家の方が三脚をセットされたのを覗かせてもらい、可愛い目をしたヒナと親鳥も、もう１
台で見る事ができラッキーでした！！妙見山ブナ林、巨樹、素晴らしかったです！！（鹿島）

今回のバス例会では企画委員の中で私と田中さんが主担当者になりました。開催当日までには色々な準備が有りましたが、天候にも恵まれ予定のコースを無事に終えることができホッとしています。午前の地黄湿地をガイド頂いた湯浅さんからは、予想以上に充実した内容の草花の観察や解説を聞かせて頂き、当日参加者には充実した観察会になったと思います。午後の能勢ブナ林では代表に解説を事前依頼し、行きのバス中や現地でお世話になりました。皆さん、ご協力有り難うございました。（古結）

地黄湿地は初めて、トキソウが鮮やかでした。湿地の植生を守るために、さまざまな取組をされていることがよくわかりました。シカ対策は大変だなと思っていたら、翌日勤務先(京都市内)の駐輪場にシカが現れ、ニュースにもなっていました。野間の大ケヤキに営巣するアオバズクを見られたのもうれしかったです。ブナ林の観察では、未熟な堅果が殻斗ごと落ちていました。樹体内のエネルギー不足か強風や乾燥などの急激な環境ストレスがあったのではないかと思います。（武永）

今まで何か所かの湿地を訪れましたが、これほどのトキソウ個体数を観察したことがなく、感激しました。モウセンゴケ、ハッチョウトンボ、他に、シオヤトンボが大変多かったのも印象的でした。モリアオガエル、シュレーゲルアオガエルなど、湿地の観察は楽しいです。野間の大ケヤキは、聞きしに勝る神々しい姿で、アオバズクの姿まで有難うございました。
妙見山では。低標高でのブナの姿を林内のあちらこちらに、かなり太い高木で見ました。若い実をたくさん落としていましたが、昨年の実から発芽したものも見られ、何とか無事生育してほしいと祈ります。（眞田）

大阪に地黄湿地のような湿地があることを初めて知れたことがとても良かったです。トキソウ、ヒトツボクロ、オオバノトンボソウ、羽化したての黄色いハッチョウトンボなど珍しいものが見られました。野間の大ケヤキでのランチの時間も、大けやきにアオバズクやフクロウを見ることができたことと、そこでそれらの鳥に関する色々な情報を教えていただいたことが最高でした。（細川幾由）



京都から近い能勢町に地黄湿地という湿地帯があると知り、参加。トキソウの花も咲いていたが、保護されているので間近で観察できず残念。ここはハッチョウトンボもいるので、また訪れてみたい。妙見山ではブナの実を発見。初めて見たので、落ちていた薄黄緑色のトゲのある実を持ち帰る。翌日、果皮は茶色く硬くなり、4列に全開して中に種がお目見え。まるでソバの実のようで「こんな子が中にいたんだと！」と次の日まで楽しめた。(細川 真由美)

地黄湿地ではモウセンゴケと花が咲いているトキソウは間近で見られず残念でしたが木を伐り日が当たるようにしていること秋にはススキの刈り取りと人の手が入っての湿地。保全と見せるための整備のむつかしさを感じました。いつまでも残してほしい湿地です。(齋藤)

木に咲く花が好きです。今回の山で花と昨年咲いた実が残ってる樹木が多いように思いました。ネジキ エゴノキ ヒサカキなどです。この山はそんな特徴があるのか私が今更のように気付いただけなのか分かりません。(三木)

能勢妙見山でブナを見た帰り道、代表からのお題「不思議なものを探す」、下の落ち葉をじっくり観察しながら歩きました。葉の色模様はまるで絵のようで、レース状や虫食いも美しく、次の命へのつながりも感じました。(松田)

「日本一の里山」と呼ばれる北摂一帯。その一角の能勢に行く機会を得て楽しみにしていました。地黄湿地では湿地に行くまでの道での豊かな植生に感激。湧水湿地特有の植物に出会え、滋賀や京都南部との共通点を見ることが出来ました。次は西宮の湿地に赴きたい。ブナ林はやはりこの地域での生育は厳しいのか……。驚いたのは野間の大ケヤキ、信じられない巨木。アオバズクの姿も見られた。残念なのは日本一と称される台場クヌギの広がる里山の景観を見ることが出来なかった。またの機会を待とうと思う。(清水)



No Museum No Life! 「自然史博物館が大事だよね！」その2

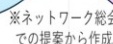
これに先立ち、2月20日14時から「センター友の会プレイベント」としてラウンドテーブル（談話会）がセンター交流オフィス（左京区役所内）で実施。3月20日13時から自然環境保全京都府ネットワーク（以下ネットワーク）の総会がけいはんな記念公園ビジターセンター研修室で開催されました。

2017年に「京都にも自然史博物館を！」と自然環境保全京都府ネットワークが設立されて9年、ようやく博物館を生み支える組織に進化しました。「ネットワーク」は民間団体ですが、「きょうと生物多様性センター」は京都府と京都市が共同で設立した公的機関です。

1. 松村きょうと生物多様性センターコーディネーター：経過と組織について

- Q&A のあと、センター友の会の入会受付があり、小生も含めて約 40 名が当日入会しました。

友の会は個人参加で、¥2000／年です。ネットワークやnoi-Kyotoは下図の通り「連携団体」への所属が提案されていますが、今のところ詳細は決まっていません。これから論議を深めていきます。



⑨ きょうと生物多様性センター
本部オフィス

花背の豊かな生態系を守るために

オオハンゴンソウ駆除活動 5 年間の報告

2022 年より 2026 年まで 5 年間夏原グラントの助成を受けて花背の豊かな生態系を守るため オオハンゴンソウ駆除活動をしてきました。

2026 年 3 月夏原グラントに提出した冊子掲載報告です。

「夏原グラントで実施した事業の紹介」

花背は京都市と言っても年平均気温は青森と同じで雪深い地域です。そんな冷涼な気候を好むオオハンゴンソウは大繁茂をしていました。その間に根は塊根となり、豆粒でも残れば、また大きく育つ厄介なものです。それでも 3 年掘ればなくなることを実証して、今広大な地に挑戦しています。そこには何種もの小さな花が咲き出しました。花背の自然を復活させるために植生回復の手だてを講じています。きっと色とりどりの花園になることを夢見て。

「環境や地域への貢献」

地元では特定外来生物への理解が深まり、できる範囲の防除をしていただいています。小学生は私たちと一緒にオオハンゴンソウを学んで、自分事に考えてくれました。花背の地が美しい自然があることも多くの人に知ってもらいました。

「助成金が活きたと思う点」

京都市最北端の花背は遠く、バス便も少なく多くの人の参加は無理でした。年 3 回の大作戦に送迎バスが必須。また機材を揃えることにも助成金はなくてはならないものでした。

5 年間下支えを頂きありがとうございました。



2026 年 4 月

2026 年第 1 回オオハンゴンソウ駆除活動と自然観察会

花背八樹 市民農園横休耕田（オオハンゴンソウ抜根実施地）にて

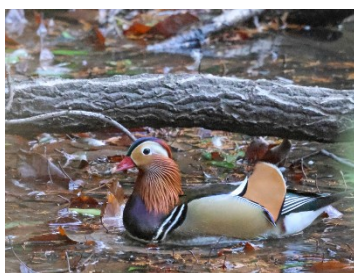
野鳥だより ー冬ー

2025-2026 年の冬は全国的にクマによる被害のニュースが多く、京都市周辺でもクマ出没情報が増えたことで山間部の定期生息調査や探鳥会は中止になりました。しかし都市公園や河川敷を中心とした野鳥観察は心配ありません。都市周辺で越冬する野鳥には好みがあるのか毎年決まった場所に来る傾向があり、過去に出現した公園や河川を中心と歩きます。冬は広葉樹が葉を落とすので、野鳥を最も見つけやすい季節です。予想される冬鳥を一通り見つけるまで落ち着きませんが、見つけて写真を撮ると安心します。この冬は雨が少なく乾燥して出会える鳥の種類や数の少ない状況が続きました。日本に来る冬鳥の絶対数が減ったのか、山間部に餌がまだ豊富で平野部に出てくる鳥が少ないのか分かりませんが、探鳥記録は Web を通して調査保護団体に提供しています。

さて 11 月になると、越冬するカモ類や小鳥たちが北から本格的に京都近郊に移動してきます（冬鳥の写真は森の新聞 201 号秋編も参照してください）。昨年ダイサギが学術上 2 種に分かれて、それまで留鳥でダイサギとよばれていた足（ふしよ）の黒いタイプが亜種チュウダイサギに変わり、冬に大陸から渡ってくる大型で足の黄色い方が亜種ダイサギとなってともに河川で見られます。山から下りてきた留鳥のイカルは群れになって公園にきますし、ドングリ林のある静かな池にはオシドリがやってきます。



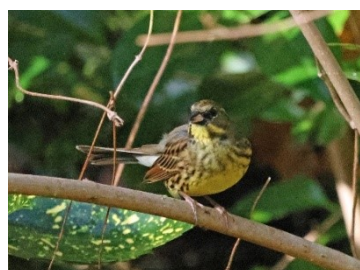
亜種ダイサギ(中央)



オシドリ・雄



キンクロハジロ・雄



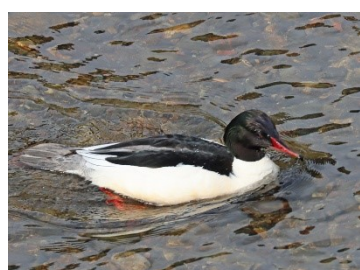
アオジ・雄



ルリビタキ・雄



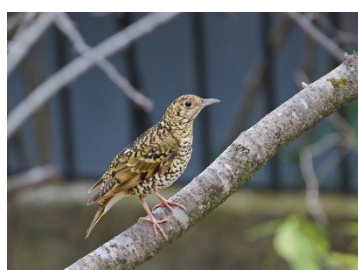
アオバト・雄雌



カワアイサ・雄



ヒドリガモ・雄



トラツグミ

12 月はさらに冬鳥が増えて、山沿いや木の茂った公園ではシメ、シロハラ、ツグミ、アオジ、アトリ、ルリビタキが茂みの中から警戒や地鳴きの声をあげます。ドングリの実った公園に越冬にくるアオバトは早朝木立の茂みから飲水に出くるときが観察のチャンスです。大きな河川や湖沼ではオオバンやキ

シクロハジロの黒っぽい大群、エクリプスから生殖羽のきれいな羽衣に生え替わったカワアイサ、コガモ、ヒドリガモ、オカヨシガモなどの雄が容易に見分けられます。

1月、まだこの冬見ていない鳥を訪ねて市内の要所を回りますが、密やかに越冬に来る愛すべきトラツグミは、今季は出会うことができませんでした。鳥たちは日照時間が長くなると性ホルモンの分泌が増えて繁殖に向けての準備を始めます。カモの雄たちはきれいな羽衣を見せびらかすように、競って雌の周囲を泳ぎ回り声を張上げます。ふだん臆病なアオジやシロハラなどは北に帰る体力をつけるため、隠れていた茂みから出て活発に餌を探します。シジュウカラは営巣する新居を探します。この時期は野鳥と人との距離が最も近くなるので離れて見守りましょう。活発に動き出した鳥を狙ってハイタカやチョウゲンボウが市街地の上空に現れることがあります。河川では早朝、この時期だけコサギが大群で集まるので婚活イベントかなと思っています。カワウは頭部や脇に白い羽毛が目立つようになります。



チョウゲンボウ



ほとんどがコサギ



カワウ



アオサギ



イソヒヨドリ・雄



キレンジャク

2月、野鳥たちの繁殖準備はますます活発になり、アオサギはくちばしや足の色がピンクの婚姻色に変わり、背や胸に飾り羽を付けます。イソヒヨドリ、セキレイ類、メジロ、ウグイスはさえずりを練習し始め、追いかけ合いも始まります。カモ類はペアで行動するようになりますが、極北の繁殖地まで関係が続くのか分かりません。今年はお出合える鳥が少ない中、府立植物園など市内各所に多数のヒレンジャクと少数のキレンジャクの混群が現れて長く滞在してくれました。尾の先が緋色のヒレンジャクは東アジアに多く、訪日は不規則で放浪の鳥といわれています。ヒーヒーと高い微かな鳴き声が頭上からしたら、高木の上の方を探してみると群れが見つかります。歌舞伎役者の化粧のような顔は遠いと目立ちません。大量に実をつけたトウネズミモチ、ピラカンサ、キヅタなどに群がって、食べ尽くすと移動していきます。またレンジャク類に交ってツグミも次第に大きな群れになり、少数は春遅くまでいました。

3月、冬鳥は北の各地に飛び去って少なくなります。カワセミの雄は雌に小魚をプレゼントして求愛し、雌は気に入った河川近くの土の絶壁に深い穴を掘らせて、その奥で営巣するようです。越冬していたイワツバメが橋下の巣を補修し始めると、やがてツバメやコシアカツバメも帰ってきます。留鳥たちが抱卵のため巣にこもる一方、普段とちがった鳥の声が聞こえたら、抱卵で尾の曲がったエナガやスズメの親と生まれたひなが呼び交わす声かも知れませんが、鳥の声にも注目しましょう。(松井)

モチツツジとモチツツジカスミカメの密な関係

名付けて昆虫界の風林火山

5年前のある日、モチツツジの葉の上に虫の死骸があり、よく見ると死骸の右と左に虫がいて、体液を吸っているようだった。これがモチツツジカスミカメに興味を持つきっかけとなった。

モチツツジは花が咲くころになると、ツボミや葉がネバネバしてくる。ここに昆虫がやってくると、ネバネバの粘液が体に絡みつき身動きができなくなり、やがて命が果ててしまう。

ここを餌場として、生きながらえている昆虫がモチツツジカスミカメだ。体長は4ミリくらいで、細長く、体色も緑色をしているため、まったく気が付かないほどだ。



これらの写真は、キムネクマバチ（体長10mm）、コアオハナムグリ（体長12mm）、この2種は共に体毛が多く、ネバネバに絡みやすいから大型なのに動けなくなってしまうのだろう。他にもハエ類ハチ類や甲虫類までもが、ネバネバに足をとられ、身動きができなくなった状態を示している。動けなくなり命を落とすほどの威力がある。

私の5年間の観察では、このネバネバを回避できる虫は、

- ① モチツツジカスミカメ
- ② イトカメムシ
- ③ サシガメ類

モチツツジカスミカメに興味を持つようになってからは、公園や神社仏閣へお参りに行けば必ず境内のモチツツジにモチツツジカスミカメがいるかチェックしている。

その結果、智積院、泉涌寺、三千院、龍安寺の境内のモチツツジには、モチツツジカスミカメはいた。

また、公園では船岡山公園はモチツツジが数多くありモチツツジカスミカメの宝庫である。同じようにモチツツジが多くある宝ヶ池公園には全くいないのだ。

船岡山にはモチツツジとヒラドツツジが混在している。ある日、モチツツジを一つ一つチェックしながら歩いているうちに、ヒラドツツジと気づかず、少し大きく体色も少し違う個体が出て、よく似ているが違うので、調べてみたらイトカメムシとわかった。

どちらもモチツツジのネバネバを回避できるのだ。そして同じように虫の死骸の汁を吸うのだ。

モチツツジカスミカメは、足を捕られて死んでしまった昆虫の体液を吸うことと植物の汁を吸うことで栄養をとっているいわゆる雑食だ。

なぜモチツツジカスミカメは足を捕られないのだろう。昆虫の体液を吸う間は死骸の傍に長い時間いるのになぜだろう。

ここを餌場に行っている昆虫は他にもいる。サシガメも葉の上で時々見かけるが、同じように死骸から体液を吸っているが、全くネバネバには足をとられない。

じっと観察していると、モチツツジカスミカメは足が長い上に歩くのも早い。これがネバネバの葉の上を難なく動ける秘密なのかな。

さらによく飛び回る。そして、危機を察知する能力にも優れている。写真を撮ろうとそっと近づくと、全くネバネバに足を取られることなく、すぐに葉の裏に隠れる。



左の写真がモチツツジカスミカメ（体長4 mm）、右がイトカメムシ（体長6 mm）。

この写真の真ん中は5年前から追いかけていて初めて撮れた貴重な写真だ。腹の真ん中あたりの左右に黒いものが写っている。成虫となる証の羽が見えるので感動した。

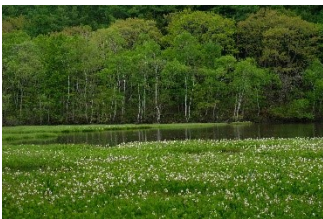
左は孵化して間もない幼虫かな、右はイトカメムシ小さいのでよく見てください。

文責（弓削俊彬）

ちよっとなついでに自然観察(20) 戸隠・玉原高原

平尾繁和

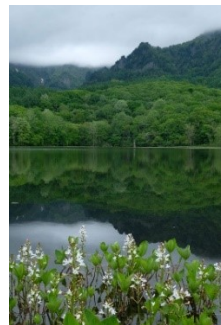
ミズバショウの頃にぜひ訪れたいと思っていた場所がいくつかあり、まずは、江間章子の歌詞でお馴染み「夏の思い出」の尾瀬ヶ原。2021年5月、山小屋を予約し行く手筈を整えていたが、コロナ禍で断りの電話が入ってかなわず。次に行きたかったのは戸隠にある奥裾花自然園でした。5月末に鬼無里に泊まり奥裾花自然園へ行くことにし、せっかくだから足を延ばし関東随一といわれる玉原高原のブナ林も訪れることにしました。1日目、戸隠の飯綱山の西登山口から種池・古池を訪れました。種池は森に囲まれミツガシワが池の手前に群生し幽玄な雰囲気、古池はその名前と違い開けた所で溜池のようでした。手前の流れにリュウキンカやミズバショウが少しあり、林縁にはクルマバツクバネソウがみられました。ついで戸隠の鏡池に立ち寄りました。戸隠の山を背景に池の手前にミツガシワが咲いていました。紅葉伝説のある鬼無里に泊まり、夕方と翌早朝に周辺をスロージョギングしながら植物観察。しかし、目当ての奥裾花自然園は、5月16日に公園へ行く途中の道路で崩落があり休園中とのこと。仕方なく2日目は戸隠に戻り戸隠森林植物園に行きました。駐車場の脇の残雪の傍に咲き残りのミズバショウとリュウキンカが見られました。ブナにも出会え、いい場所でした。自然館の前にはシラネアオイが植えられていました。降り出した雨の中関越道を東に車を走らせ、片品村へ。ペンションの主人に聞くと「今が尾瀬ヶ原のミズバショウの一番の見頃ですよ」とのこと、残念ながら今回は尾瀬にはいかず玉原へ行く予定と話す。3日目の朝、沼田へ引き返し、玉原高原の休憩舎前の駐車場に止め、小雨が降ってきたので雨具をつけて出発。右手のブナ平へ登っていくと、タムシバの花が雨に濡れていて、途中ミズメの老木もありました。ブナ林は比較的若い木が多く、新緑に生き生きとし、ブナの林を堪能することができました。玉原湿原はワタスゲが咲いていたが、ミズバショウは木道の間の金網の下に咲いていただけでした。これもシカによる被害でしょうか。玉原高原からは、鹿俣山や尼ヶ禿山へも行くことができます。後日知ったのですが、玉原高原は「散策したいブナ林10選」(日経プラスワン)で白神山地に次いで2位に入ったそうです。(2025.5.30~6.1)



戸隠 種池



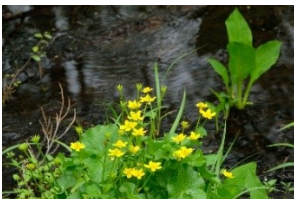
鏡池



ミツガシワ



クルマバツクバネソウ



リュウキンカ



グミ s p



ミズバショウ



戸隠森林植物園



シラネアオイ



ミズメ



ブナ



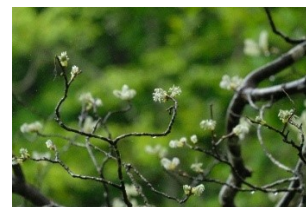
セミ殻



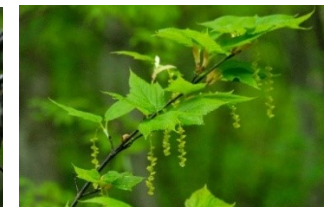
タムシバ



ワタスゲ



コナラ



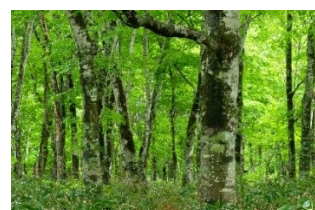
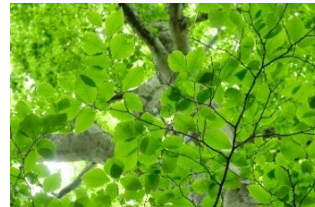
ウリハダカエデ



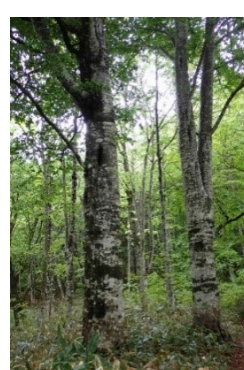
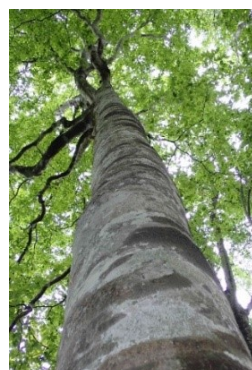
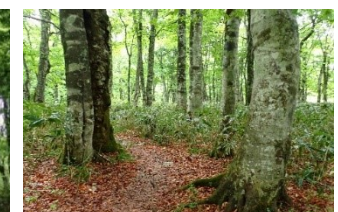
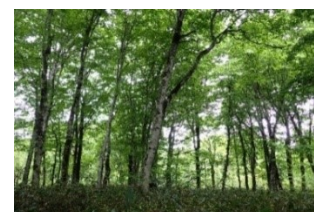
ウワミズザクラ



クロモジ



ブナ林



ブナ実生

1.「友の会」観覧会

※スタッフへのお願い

友の会は毎回 40 名～50 名の参加者が見込まれるので、担当を少なくとも 4～5 名以上にしたいと思います。担当が少ないところは積極的に参加表明をお願いします。メーリングリストまたはホームページ会員のページから書き込むことも出来ます。

★「友の会」は会員スタッフと「友の会」参加者が対等の立場で一緒に自然を楽しむ場です。会員スタッフは腕章または指導員名札を着けて下さい。

★天候状況、感染症などにより中止することがあります。その場合午前 7 時の時点で、ホームページに中止のお知らせをします。

★小雨でも行います。雨の日には、雨ならではの観覧が出来ます。

★傷害保険は毎回、参加者全員にかけています。



☆夏の特別例会 セミの羽化観覧

★命の輝き セミの羽化

日時 2026 年 7 月 25 日（土）

場所 京都御苑

集合 18:00 中立売休憩所

解散 20:00 頃

下見 7 月 18 日（土）

☆第 251 回 下鴨神社 ◆歩行約 6km

★糺の森を歩きつくす

日時 8 月 30 日（日）

場所 下鴨神社 糺の森

集合 8:30 叡電 出町柳駅 改札前

解散 12:00 頃 下鴨神社

下見 8 月 23 日（日）

☆第 252 回 枚方市 穂谷 ◆◆歩行約 5km

★日本の原風景に出会う

日時 9 月 20 日（日）

場所 枚方市 穂谷

集合 9:45 京阪バス穂谷バス停

（京阪枚方駅南口よりバス 35 分）

（JR 片町線津田駅よりバス 20 分）

（近鉄京都線新田辺駅よりバス 15 分）

解散 14:30 頃 同上

下見 9 月 13 日（日）

* 注意 バスの時刻は各自再確認をお願いします。

☆第 253 回 三川合流 かわきた公園の奥

★知られざる三川合流域

◆歩行 4km

日時 10 月 11 日（日）

場所 八幡市かわきた公園から先端部へ

集合 9:30 京阪石清水八幡宮駅改札口

解散 15:00 頃 同上

下見 10 月 4 日（日）

☆第 254 回 伊香立の里 ◆◆歩行 5km

★晩秋の里山に遊ぶ

日時 11 月 8 日（日）

場所 滋賀県 伊香立

集合 8:45 JR 湖西線堅田駅改札口

解散 16:00 頃 同上

下見 11 月 1 日（日）

☆第 255 回 大吉山 ◆◆歩約 5km

★宇治川のほとり低山逍遙

日時 12 月 13 日（日）

場所 大吉山—朝日山—興聖寺

集合 9:30 京阪宇治駅改札口

解散 15:00 頃 同上

下見 12 月 6 日（日）

2. 講師派遣

【2026 年度社会人大学校】（スタッフ参加希望募集） 古都をめぐる自然観察

講師参加者担当募集中 下見（一週前）・当日 9：30 集合、3 班体制

・10 月 20 日（火） 船岡山 平安京の玄武を散策 市バス船岡山バス停集合

担当 上月、平尾、清水、出口、齋藤、榎、田中

・11 月 17 日（火） 水度神社から鴻巣山 少し早い紅葉を楽しむ JR 奈良線城陽駅集合

・12 月 15 日（火） 皇子が丘公園 冬芽を探そう JR 湖西線大津京駅集合

・2027 年 2 月 16 日（火） 三川合流背割り堤 春を見つけに さくらであい館前集合

・3 月 16 日（火） 瀬田公園 新幹線のそばに早春の花 帝産湖南交通朝倉バス停集合

【鴨川探検！再発見！ 水辺のいきもの - 夏編】 7 月 26 日（日）

担当 伴、弓削、古結、武永、岡本み、あと 3～4 人募集

下見 7 月 13 日（月）9:00 京都府土木事務所 伴、弓削

【西山ファミリー環境探検隊】2027 年 4 月 24 日（土） 予備日 4 月 25 日（日）

【川島織物】植生調査 未定

3. 地図をもって観察に行こう！

「noi-Kyoto が発行した地図をもって観察に行こう！！」

（日帰り例会）秋の日帰り例会 日程と場所 7 月中に決定

（宿泊例会）7 月 31 日（金）～8 月 1 日（土） 中央アルプス駒ヶ岳千畳敷 （泊）二人静

宿泊例会担当 古結、出口、海老原 3 人で担当

（地図を持って）北部：未定

4. モニタリング調査（花背・中世木）

・中世木モニタリング（原則第 3 金曜日） 7 月 17 日（金）

集合：現行 ①桃山御陵前東御香宮鳥居付近 9:00 集合 ②（西ルート）洛西西口など

2 ルートあります。参加希望の方はお問い合わせください。

・花背モニタリング（原則第 4 火曜日） 7 月 14 日（火）

集合：現行 植物園モニュメント前 9:00 集合

7 月 14 日（火）オオハンゴンソウ大作戦準備のため変則

7 月 20 日（月・祝）オオハンゴンソウ駆除大作戦と自然観察会

10 月 18 日（日）オオハンゴンソウ駆除大作戦と自然観察会

5. オオハンゴンソウ駆除活動関係

モニタリングと一緒に実施、モデル区の抜根完遂（三年目でほぼ完全に元の状態に）

モデル区の推移を広く公表する。（2025 年の調査まとめ）

目標スローガン 「刈り取りから抜根へ、そして植生の回復」

* 駆除後のオオハンゴンソウの処理問題

企業との連携 協力（京都市・京都府企業とのパートナーシップ協定）

ティ・エヌ・ティとパートナーシップ協定ができごみ処理解決。

毎月のごみ収集と大作戦時の収集も可能になった。

* 抜根後の伐根区利用方法 市民農園横休耕田と古原氏宅抜根区

花背の在来の種を移植（クリンソウ、カリガネソウ、アケボノソウなど）

現在 試験的に市民農園横休耕田でサンショウ、カリガネソウ、キタヤマブシ、オタカラコウ、ハダカハウズキを 2025 年 11 月に種まき、現在芽が出ている。鹿害の対策が必要。

古原氏宅抜根区の利用方法古原氏も同様の意向を示された。

抜根地の利用の試案を出してほしい。市民農園横、古原氏宅（鹿害のことも考えて）

実行のための企画立案 担当する人を選出

6. 京都府環境保全課・京都市環境管理課関係

（京都府）・「京都の自然 200 選」標柱等の現状確認の依頼…承諾

（自然環境保全京都府ネットワーク）（きょうと生物多様性センター）きょうと生物多様性センター友の会が発足 会員募集中（個人単位 会費 2000 円/1 年）

センターメルマガへの情報提供係 古結

併せて noi-Kyoto の LINE 及びメーリングリストに友の会、講師依頼、宿泊例会、日帰り例会などの情報発信する人：運営委員会の司会を担当した者が行う。

7. 助成金関係

夏原グラント 夏原グラントステップアップ 2 年間助成金 26 年 3 月まで助成終了

イオン、タカラハーモニーなどへの助成金申請をする。

8. 理事会・運営委員会 ※発送の時、可能な方は30分前にご集合下さい

7 月 18 日（土） 第 4 回運営委員会 13:00 下京いきいき活動センター

8 月 15 日（土） 第 5 回運営委員会 13:30

9 月 19 日（土） 第 6 回運営委員会 13:30

暑気払い 9 月 19 日

2027 年度総会 日時 2027 年 2 月 28 日（日）会場ハーピア京都（烏丸丸太町下がる東側）定員 60 名

9. 組織拡大・強化

自然を学ぶ講座 修了書授与 修了した人に noi-Kyoto の会員に加入を促す。現在 9 名加入

◎A 新規指導員 新加入 24 名 総数 94 名

◎B 役員の役割分担改善 担当：上月 仕事一覧作成

◎C 講師依頼の謝金明確化：福井、上月、清水

10. その他

■森の新聞の原稿（報告原稿）はワード原稿を実施1週間以内に書いて齋藤まで送ってください。講師派遣の報告者を決めて齋藤まで連絡をお願いします。報告原稿は800字くらいでお願いします。

■写真は infiniCLOUD へ。（フォルダーを作っておきます。ないときは連絡ください）写真はサイズを小さくして（500～700KB がよいかと思います）キャプションと日時（例：2022 年 1 月 1 日の場合「友の会 220101」）を小文字で入れてください。（方法は上月または齋藤まで）

講師派遣で報告を書く人、写真を撮る人を決めて齋藤まで連絡をください。

■noi-Kyoto入会案内パンフレット印刷できました。ご活用ください。

■変更：観察会毎の参加者の記録（下見・本番）をリーダーが記録して会計に送る。

記録を元に後日一括して支払う。運営委員以外はプリペイドカードを郵送する。

支払方法：半年ないし 1 年分を 7 月 12 月に支出。

受け取り方法：運営委員は 7 月、12 月（1 月）の運営委員会で支給

■保険 友の会参加者にかかる保険について 一人30円の保険をかけます。けがをしたときはお知らせください。古結まで

□審議提案

* 友の会の参加者が多いので、交通費支払いについて方法を考えてはどうか。

(現在：下見本番参加で 2000 円、本番だけ参加 1000 円) 経費が掛かりすぎている。

- ・ 下見と両方出た人のみ支払う。 ・ 人数固定で 10 名分だけ出す。
- ・ 両方出た人に支払い、やってみてそれでも人数が多いときは半額にすればよい。
- ・ 友の会の会費を上げる 400 円→500 円に

時間切れで次回運営委員会で審議継続となりました。

* 宮城さん提案：ボランティアとして能登の人と草木遊びをしてほしい。

- ・ 賛同した人が有志で参加するので良い。
- ・ 協力の関係として受け止める。宿泊例会とは切り離して考える。→宮城さん参加の時に再検討

* 一度にたくさんの方が会員になられたので一人ずつフォローできない。どこの何に参加すればよい。
かわからない

- ・ 運営委員会の議長が 3 か月単位の参加募集行事をメーリングリストとグループ LINE に送る。
- ・ noi-Kyoto の細則がないので、作成して新会員に渡すことである程度解決できる。(清水作成)

2026 年 10 月～12 月

自然観察会

自然と遊ぼう

noi-Kyoto

主催：NPO 自然観察指導員京都連絡会 「友の会」

第253回 三川合流かわきた公園の深部

★ 知られざる三川合流域

日時 10 月 11 日（日） ☆歩行 約 4 km ◆

場所 八幡市かわきた公園から先端部へ

集合 9 時 30 分 京阪 石清水八幡宮駅 改札口

解散 15 時頃 同上

持ち物 お弁当 水筒 雨具 双眼鏡 ルーペ
ハイキングのできる服装



第254回 伊香立の里

★ 晩秋の里山に遊ぶ

日時 11 月 8 日（日） ☆歩行 約 5 km ◆◆

場所 滋賀県 伊香立

集合 8 時 45 分 JR 湖西線 堅田駅 改札口
(集合後にバス移動あります)

解散 16 時頃 同上

持ち物 お弁当 水筒 雨具 双眼鏡 ルーペ
ハイキングのできる服装

第255回 大吉山

★ 宇治川のほとりの低山逍遙

日時 12 月 13 日（日） ☆歩行 約 5 km ◆◆

場所 宇治 大吉山～朝日山～興聖寺

集合 9 時 30 分 京阪 宇治駅 改札口

解散 15 時頃 同上

持ち物 お弁当 水筒 雨具 双眼鏡 ルーペ
ハイキングのできる服装



★事前申し込みは不要です。

★お問い合わせ先：090-3059-3705 kyoto-renrakukai@docomo.ne.jp

★観察会参加費：400 円（中学生以下無料）友の会会員は無料（年会費 2,000 円）

★通常の安全対策は行いますが、それ以上の特別な配慮はできませんので、その点をご理解の上、自己の責任でご参加ください。

★観察路上にトイレのない場合があります。

★天候状況により中止する場合があります。

★解散時間は目安ですので多少前後することがあります。

★中止、変更などはホームページ（友の会、連絡事項）をご確認ください。

QR コード



<https://noi-kyoto.net/>

難易度マーク◆

（多いほど、きついコースです）

◆：散歩程度です。

◆◆：少し高低差もあります。

◆◆◆：ちょっときつい山道もあります。

◆◆◆◆：距離・高低差があります。

ホームページは QR コードまたは noi-kyoto、NPO 自然観察指導員京都連絡会などで検索しても確認できます。

観察会参加申込み（今年初めてご参加の方は、記入後当日ご持参ください。）

お名前

お電話

ご住所（〒 ）

京阪電車に乗ると「おけいはん」「青もみじ」と書かれた大きなポスターに出会いました。最近「青もみじ」という言葉をよく聞くようになりました。「青い紅葉（もみじ）っておかしいやろ」と突っ込みたくなるところです。それをぐっと抑えて、いつ頃から、誰がと知りたくて調べてみました。2006 年京福電鉄（京阪グループ）が沿線にある紅葉で有名な天竜寺宝厳院の初夏を売り出すキャンペーンに使ったのが始まりといわれています。そして 2015 年 JR 東海の「そうだ 京都、行こう」の初夏の CM に使われて一気に全国に広がっていきました。ついでに京阪電車の公式 HP を調べると沿線の紅葉の有名寺社を書き並べ、青もみじはカエデの青いものですよと説明しています。だから「青紅葉」とはせず「青もみじ」とポスターに書かれているのでしょう。

すでに初夏の緑を表す言葉は「新緑」「青葉」「若葉」など色々とあるのですが、それを越してまで「青もみじ」が世間に広まったのは、日本人が「桜」と同様に「紅葉（もみじ）」をこよなく愛するが故に心の奥の琴線に触れたのでしょう。そして言葉が一気に映像と化し、初夏そのものの漲る力を映し込んだともいえます。言葉が風景を作り出すという、表現力には恐れ入ります。

しかしもう一つ、一つの言葉からイメージを膨らませる「床もみじ」。これは岩倉実相院が始まりですが、ここでは春の床には「床みどり」として、色の違いの鮮やかさを描き出す言葉としてあえて緑にしています。

言葉は時とともに変化し、また人口に膾炙されればされるほど変化もします。初夏の山を歩いて様々な雑木に出会ったとき「新緑が美しい」「若葉が目に見えやか」などではなく、「青紅葉がきれいだね」などと、「青もみじ」の範囲は広がっていきます。新緑のブナ林に入っても青もみじというのでしょうか。

私たちが自然観察指導員として緑をとらえるときは、ブナの緑、リョウブの緑、アセビの緑、マツの緑と多様な緑をどう表現するか、そしてそれをどう伝えるのかを考えていくために「青もみじ」の言葉から学んでいけたら良いと思います。（清）



表紙のことば

家の近所の散歩道の道路脇が災害防除のため、ごっそり大きな山桜、朴、シデ、栗からお気に入りのホツツジやクロモジ、コアジサイと切り倒され、擁壁か何かで覆われてしまうことに。工事の合間をぬって、いくつかの樹木を移植したりしていますが、もうあの景色に会うことはできない。そんなことを思いながらひっそりと咲いていたコアジサイの花を描きました。

「森の新聞」第94号（通巻203号）（2026/7）

季刊（1月4月7月10月発行）

発行：特定非営利活動法人自然観察指導員京都連絡会

〒612-8114 京都市伏見区向島下之町 830 番地の1（清水方）

電話：090-3059-3705

e-mail：kyoto-renrakukai@docomo.ne.jp

発行責任者：清水正

編集責任者：齋藤紀子

編集担当者：久間孝子 眞田幹雄 平尾繁和 中川大一

細川真由美 海老原緑 正本文枝 榎三津子

表紙：（題字・絵）川勝ユキ

ホームページ（<http://noi-kyoto.net/>）：上月章

会費：年会費（1～12月）3000円 入会金 500円

郵便振替口座：（番号）00950-6-305311

（加入者）NPO 自然観察指導員京都連絡会



<https://noi-kyoto.net/>